

第3回いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会 要点記録

会議名	第3回いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会
開催日時	令和2年9月2日(水)午前10時から午前12時まで
開催場所	区役所北館9階大会議室A
出席者	<p>[委員] 11人(敬称略)</p> <p>岡田匡令(会長)、木村政司(副会長)、杉田理恵、山口諤司、小林保男、帯刀繁、別府明雄、真木亨、王眉眉、森弘、湯本隆(欠席:2人)</p> <p>[事務局]</p> <p>文化・国際交流課長 折原孝</p>
会議の公開(傍聴)	公開
傍聴者数	2人
議題	検討会報告書(案)について
配布資料	<p>資料1 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会工程表</p> <p>資料2 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 検討会報告書(案)</p> <p>資料3 文化芸術部会・多文化共生部会 意見要旨</p> <p>資料4 第3回検討会 作業シート(文化芸術部会)</p> <p>資料5 第3回検討会 作業シート(多文化共生部会)</p>
審議状況	<p>【開会】</p> <p>事務局:皆さまおはようございます。定刻前ではございますが、皆さまお揃いでございますので、ただいまから第3回いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会を始めさせていただきたいと思います。私は、文化・国際交流課長の折原と申します。よろしくお願いいたします。はじめに、岡田会長からご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>会 長:皆さん、おはようございます。大変な状況が続いておりますけれども、今日はお集まりいただいた皆様が健康でお過ごしいただいていることを大変嬉しく思います。今回はいよいよ最後の検討会ということになりました。部会のご意見を踏まえながら議論を深めたいと思います。本日もどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>事務局:ありがとうございました。本日の会議では、新型コロナウイルス感染症の対策としまして、前回に引き続きとなりますが、窓を開ける、人と人との距離をとるなど対策を講じております。また、本会議については公開となっておりますので、会議録を作成して、公開させていただきたいと思います。なお、本日の会議では駒形委員と山口委員がご都合によりご欠席となっております。また、傍聴希望の方が2名入っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>はじめに、本日の配布資料の確認をお願いします。</p> <p>(配布資料の確認)</p>

それでは、引き続き進行を岡田会長にお願いいたします。

【検討会報告書（案）について】

会 長：それでは、次第に従いまして、検討会報告書（案）について、本日検討してまいりたいと思います。これにつきまして、事務局から説明をお願いします。

事務局：説明いたします。

（資料１～５の説明）

会 長：ありがとうございました。

早速、皆さまにご意見いただきたいのですが、部会に参加しておられました委員の中で、ご意見いかがでしょうか。

委 員：資料の中で使われている言葉で、「板橋らしい」という言葉はしっかりと定義がされていないかと思います。芸術文化という言葉が、どういうところを、どのように指すのかということが、もう少し違う言葉でまとまるとよいと感じました。もう少し簡略化した書き方があってもよいように思います。

新型コロナウイルス感染症によって、今後、文化芸術活動のあり方が変化していかなければならない状況です。そういう新しい時代を迎えるにあたって、報告書がこの構成でよいのかと考えます。つまり、平時に基本的な考えができているものの、現在、状況は変わっているということです。我々の考え方を変えていかなければならない状況だと感じています。ですから、非常事態に対する対応の仕方をどこかに入れておかないといけないと思います。

会 長：ありがとうございました。社会状況を十分に踏まえ、さらに新しい様式というものを検討していかなければならないというご意見であったと思います。

それから、「板橋らしい」という言葉をもう少し分かりやすく定義してもらいたいということでした。言葉の定義も含め、芸術文化といった範囲について、区としてその範囲を明確にしてほしいというご意見であったと思います。

他に文化芸術部会のご参加の方で、ご意見どうでしょうか。

委 員：まず、７ページにある「板橋区にゆかりある世界的なアーティスト」の部分のみ具体的なイベント名が記載されていますが、他の項では具体的に挙げていないので違和感があります。

次に、板橋区には櫻井徳太郎賞や佐藤太清記念中学生絵画展などがありますが、これらについての記載がまったく出ておりません。これは板橋区民だけではなく、日本全国を対象に募集しているものです。全国の文化の基礎を育てることに貢献しているため、板橋区はそういうこともやっているともっと強調した方がよいのではないかと思います。絵本翻訳大賞も全国大賞ですが、櫻井徳太郎賞も全国を対象にして民俗学の発展に寄与しているのではないかと考えております。

また、伝承館についての記載が何もないことが気になります。これは設立の趣旨や目的に合った使われ方がされているのか、調べる必要があるのではないのでしょうか。

先ほどの委員のお話に「板橋らしさ」という言葉がありましたが、板橋区のビジョンを作っているので、ビジョンそのものが板橋区のものであり、特に板橋らしいという言葉は使う必要はないと考えます。しいて言うならば、「板橋らしい」とは、板橋区の特徴的なものや板橋区固有のイベントを指しているのでは

はないかと思っています。

次に、ビジョンの資料として、検討会の報告書となるかと思いますが、板橋区の伝統文化・芸術や講義・講演、現在の文化芸術、多文化共生の例を添付したらよいと思います。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、板橋区も財政が非常に厳しいという面があるかと思いますが、非常にお金のかかる場合は別としても多少の費用で実施している講義・講演は財政の問題で中止することはやめてほしいと考えております。

会 長：貴重なご意見でした。文化芸術活動は区民とともにやる、区民が活動することを区としてどう公助していくのか、あるいは共助していくのかということが主眼になると思います。事業そのものの主体が区民であることを明確にしてほしいというご意見であるかとも思います。伝承館や文化会館の管理についても取り上げるべきだというご意見もございました。そういうことを踏まえて他の方はどう思いますか。

委 員：はい。3点あります。

一つ目は10ページの「板橋らしさ」の表現です。こちらのビジョン検討会でもこの表現はよくないと意見が出たため、変えていただきたいと思います。板橋区文化芸術振興基本条例の第2条には、「特色ある」という言葉がありましたので、「板橋区の特色ある文化芸術」にしていきたいと思います。

二つ目は29ページの基本理念のところですが、文章表現の細かい要望ですが、区の財政状況が厳しい中で、文化芸術の意義と方向性についてきちんと検討会で検討していきたいと思っています。基本理念の最初の文章で「次期ビジョンの策定においては、文化芸術と多文化共生の根幹を理解し、連携することが重要と考えます。」というこの一文の意味がよくわかりません。重要と考える中身が、何と連携することなのか書かれていないためです。「文化芸術及び多文化共生の以下の点が重要です」の文章の下に、3つ段落がありますが、次の段落が文化芸術の意義について文化芸術基本法を引用して書いてあり、2つ目の段落が多文化共生の意義について書いてあります。3つ目が「それらを踏まえると」と書いてあるため、新しいことが書いてあると思ったのですが、踏まえた内容が今ひとつ書かれていないため、文化芸術と多文化共生の意義をきちんと書いていただき、それらを総合して計画を作っていくという内容の段落に変えていただけないかと思っています。

三つ目は財政支援のところですが、板橋区文化・国際交流財団の事業は公益目的事業ということで最初から赤字のため、少し厳しい状況ですけれども地域の芸術家の協力をいただきながら継続して充実した事業を進めたいと思います。以上です。

会 長：ありがとうございました。また後ほどご意見いただきたいと思います。副会長からはご意見ありますでしょうか。

副会長：大変鋭いご指摘が3名の方からあり、大事な意見として拝聴しておりました。あくまでも報告書ですので、この報告書を作ろうと考えた事務局が検討開始から今までの間、委員の方々から様々な意見をもらうこと、それを政策に分類すること、それを見た人がどう考えるかを加味して修正することはとてもよいことだと思います。やはり様々な意見が出て、その意見が出たことを報告することはすごく大事なことだと思います。先ほど出た3名の意見も踏まえて、出た

意見をすべて報告することが最大の目的だと思います。分類別などは大変有り難いと思いますし、意見が非常にストレートに出ているところが今回の報告書の価値と思って読ませていただいております。委員の意見はまだまだあると思いますのでそれを盛り込んでいただければと思います。以上です。

会 長：ありがとうございました。芸術文化の方面での一つの今の段階での取りまとめであると思っております。それでは多文化共生部会にご出席されていた方々にご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

委 員：前回の会議で日本語教育についてのお話が印象深かったと覚えております。最近外国人の永住者がとても増えています。永住者の子どもたちが将来日本で暮らすにあたり、教育環境の問題があります。セミリングルという言葉をご存知でしょうか。セミリングルが話す日本語はとても上手に聞こえるのですが、文章や仕事上の日本語になると理解できません。一方、母国語がわかるかと言えば、日常会話程度はできますが、来日するまでに教育を受けた段階の語学力で止まってしまうのです。それによってどんな現象が起こるかという、生活でのトラブルが起きた際、その子に発達障害があるのか、あるいは、単に語学力の問題なのか、それとも精神状態からくるものなのかということがわからなくなります。そういう子が最近多くなっています。そのため、この報告書を見ると私は素晴らしいと思うとともに、これからの施策が大切だと思いました。多文化共生の目標の多言語化、多言語対応の施策の方向性に、まず「日本語の学習機会提供のさらなる充実を行う」と書いてあり、これは素晴らしいと思いますが、もう少し具体的に記載してはどうでしょうか。日本語教室をもう少し増やす、または、今よりも時間を増やして子どもの居場所を作る、日本語だけではなくそこにいと安心して落ち着いて日本人のスタッフから色々と楽しく学べる場所を作るなど、もう少し具体的なものがあったら5年後にここまでできた、ここまで目指していたけどできなかったというような評価がしやすいと思いました。

さらに素晴らしいと思ったことは、「外国人の子どもを対象とする入学前のオリエンテーションを行う」という文言です。

もう一つ、「外国人を同じ国籍や言語のグループへ加え、それと同時に、外国人グループのリーダー的な存在と区が関係性を構築していくこと」という部分についてです。この発想は、10年前であれば私も素晴らしいと思ったでしょうが、現状はとても難しいと思います。例えば、たくさんの中国人が日本で暮らしていますが、中国人は基本的にコミュニティを持ちません。気が合う相手など何かしらで自然的に何人かと仲が良いというのはあるかもしれませんが、組織的な立場で考えるキーパーソンと実質的なキーパーソンは微妙に違うのです。この見分けが非常に難しいのです。ここをどうやって構築していくのが本当に難しいと思います。以上です。

会 長：ありがとうございました。極めて具体的にご指摘いただきました。確かに日本人の感覚ではグループリーダーを育てる発想はすでに至る所で行われていますが、国や民族、あるいは宗教によってそれぞれが個といったものがベースであって、集団という考え方があまりないといったこともあるかと思います。他の方で、多文化共生に関わる場所はどうか。

委 員：施策の方向性や目標について、32ページでは最初に外国人コミュニティの部分で様々な問題があり、それらについて行政として把握して相談体制を充実して

いく方向性を出していただいています。日本語教育に関しても板橋区文化・国際交流財団の日本語教室はボランティアが行っており、区民のボランティアに頼っているところです。しかし、それだけでは足りなくなりつつあるため、行政が直接実施する、または、財団に専門家が入った形で日本語教室を運営していくなど、子どもの日本語教室を含め、やはり専門家を入れてボランティアと一緒にやる仕組みを作っていく必要があると思います。相談業務も貧弱なため、区と行政的な施策をしっかりと連携してやっていくことが大事だと思っています。

会 長：ありがとうございました。では他の委員の方はどうでしょうか。

委 員：教育の問題と高齢者たちの問題の2つがありますが、教育の問題では小さな子どもの時から本を読ませていかなければならないと考えます。読書をどれくらいしたかということは最終的に学力・知力の形成になっていきます。外国人の方が増えてくることを含め、板橋を教育という観点から見て、子どもたちに読解力や知力をつけてさせていくことができる環境を整えていくことは非常に重要だろうと思っています。新型コロナウイルス感染症と一緒に生活していく観点からいえば、教育が続けられる環境を整えなければならないと思います。それから三世代、四世代といった世代を超えた人たちの交流というのも大切なことだと思います。子どもたちだけの教育ではなく、あるいは、親だけではなく、板橋の色々な年代の方々と触れ合えるような、色々なことをお互いが学べるような環境ができるとよいと思いました。以上です。

会 長：ありがとうございました。人と人が直接対面できない状況をつなぐものがインターネットだと思いますので、見せるだけではなく双方向で学びあえるツールを積極的に活用しながら発信していくことが大事です。You tube の場合は世界中の人が見ることができ、例えば区立美術館の宣伝が世界にできたりします。日本語の勉強も自宅で実践できる方法を考えられると思います。板橋区は特にSDGsの推進に取り組んでおりまして、これらのテーマは、全てSDGsのテーマに関わっているところでございます。実務家として色々な活躍されている委員の方がおりますので、ご意見を賜ればと思います。

委 員：この報告書が今後どのように活用されていくのかという点が非常に重要なことだと思っています。この報告書が、単純にこれからのビジョンが導き出されればよいだけの報告書になるのか、そうではなくここから施策を考えていくツールになるのか。何をもち「板橋らしさ」としているのか。「板橋区の歴史そのもの」であるかもしれませんし、もしそうでしたら、それを区民にしっかり伝える努力も必要だと思います。外国の方も増えているため、共存して板橋区が一番住みやすいまちにしていこうためには伝える努力も必要だと思います。それと、岡田会長の「はじめに」という言葉の中に「この報告書に詰まった思いが区民へ浸透し、またこれに関わる全ての人が同じ思いを胸に活動を行うことで、板橋区が2025年にめざす姿を実現するものと期待しています。」の文言がありますが、報告書自体を拝見しますと起承転結がしっかりしていて課題も捉えられていて施策も盛り込まれているので、なかなか私の思いをのせることはできませんでしたが、非常によくできている印象を持ちました。以上です。

会 長：ありがとうございました。仰るとおり、検討会だから検討しただけでよいということではございません。しかし板橋区をよりよくしたいという思いに対し

て、文化芸術及び多文化共生の側面から、ご提言を申し上げる機会であると思っています。部会の意見を全部拾っていることがこの報告書のいいところだと思っています。さらにこの検討会で付け足すことがあれば加えていただきたいと思っています。会長としてそういう希望をもっています。

委員：皆さま方から色々と充実したご意見をいただきまして、私としても、文化財や伝統芸能といったものを守りながら広く区民の方に知ってもらって愛してもらうような取り組みをしながらも、不足しているものがあると、この報告書を拝見させていただいて感じております。その中で、今あるものを守りつつ、新しい時代に対応していく中でより多くの区民の方に愛されていくような施策を真剣に考えていかなければならないと思っています。

会長：ありがとうございます。文化芸術のなかでも、社会教育であれば全ての年代で行える一方、学校教育というのは対象を子どもの年代に区切ってしまいます。それを上手くつなぐということが地域教育力の問題でもあるわけです。学校教育の合間の中でできると同時に、子どもたちがその中で自分の能力や自分の資質を高める機会を作っているのは実は芸術文化であると思います。そういった意味で、行政が一体となって考えていかなければならないという気がしています。

板橋が持つ魅力の中で、特に強調されるものが「板橋らしさ」だと私はそう思っています。どこの分野でもよいのですが、この点が板橋は力を入れているというのが「板橋らしさ」だと思います。

それから今後の課題の中に、「指定管理者と財団」という文章が一つ出ておりますが、「芸術文化や多文化共生の実行主体である」、または、「核の主体となる」というように位置づけないといけません。指定管理者は施設の管理をするという意味ですが、ここでは具体的に箱ものの問題を指してはいないのです。いったい何を行うか、どう活用するかということになりますので、これに関する当事者の委員からは何かありませんか。

委員：ありがとうございます。10 ページのところに、ご指摘いただいた部分を新たな課題ということで併記させていただいており、これについては方向性を出しておりますので記載させていただければ有り難いと思っています。財団が指定管理を受けるとことは文化芸術や多文化共生においても新しい拠点をホスト事業と一緒に合わせて実施していくということです。新しい広場として位置付けて積極的に芸術文化振興・多文化共生に貢献するという方向性を記載していただければ有り難いと思っています。以上です。

会長：ありがとうございます。とりあえず一巡しました。他に、何かありますか。

委員：いろいろなご意見をいただきましてありがとうございます。いただいたご意見は、区の行政計画としてのビジョンを策定していくための大元の資料にすると同時に、区民の色々な方々の意見が詰まった、それこそ思いが詰まったものということになりますので、今回のビジョンに反映させるだけでなく、今後の文化行政・多文化共生の行政に対して様々に活用し、参考にさせていただきます。

それから今まで出た意見の中で、新型コロナウイルス感染症の影響について記載がないのではないかとのお話もございました。それについては本日色々ご意見をいただきましたので、当然それは加えていくということで記載させてい

ただきたいと思います。新型コロナウイルス感染症の影響で文化行政は大きな影響を受けております。その中でもウィズコロナの時代で、どのように文化行政を進めていったらよいのかを非常に大きな課題として受け止めておりますので、それはビジョンにもきちんと反映させていただきたいと思っています。それともう一つ、様々な方からご意見をいただいた財政状況についてです。区の認識としましては、厳しい財政状況の中にあっても重点的なものを通し、限られた財源を投資していくということについては、少し考えなければいけないというお話がございます。その中の一つとしてSDGsであったり、ブランド化であったり、様々なことがその対象となる可能性があります。そういった中で、文化芸術や多文化共生というものをどういうふうに位置づけていくのかということが重要です。報告書でいただいたご意見をどういう風に今後5か年の行政計画として展開していくかについては、区民の皆さまと一緒にその方向づけをビジョンに出させていただきたいと思っています。以上です。

会 長：ありがとうございました。実施にあたっては、非常に難しい課題がたくさんあると思います。今ある裁量の中で何を金銭的に重点配分するかを考えることが大切です。しかし、お金がなくてもやれることはたくさんあります。お金がなくてもやれることは、知力を使う、体力を使う、そして区民とともに行う中にあります。元々そういうこと自体に金銭的な目的をもって活動している人はそんなに多くありません。でもその行為によって生活が成り立たなければやれないため、成り立つことは前提ですが、最近は色々な知恵が出てきております。例えば、クラウドファンディングで資金を集める、あるいは、民間の資金を借りる、今後皆が持ち寄って会員制でやるなど、色々な取り組み方が昔からあるわけでございます。その辺は知恵の出し様です。今後のさらなる具体的な課題にあってはここではそれを示す必要はないだろうと思っています。ただ、お金がなくてやれそうにない、無理だとするのではなく、それでも取り組めるところは取り組むというふうにしていただけたらと思っています。さらに、とりまとめとして、副会長からお願いします。

副会長：この報告書をまとめるにあたって、魅力や創造という言葉はあまり出てきません。私がとても大事に思っていることは「らしさ」よりも「魅力」だということです。「らしさ」というのは、つまり「つもり」でしかないため、「板橋区らしい」ということを「つもり」でしか考えていないことになります。やはりどれだけ魅力がある区にしていくかということです。「らしさ」を与えてもらうのではなく、区民が作っていくことがとても大事だと思います。板橋区に住んでいるから何かを与えてもらうのではなく、自らが「らしさ」をつくっていくということです。この報告書が、板橋区に住んでいる自分をつくっていく提言につながればよいと思います。そうすると、板橋区は本当に魅力的に物事を進めているのかどうかを振り返ることができる報告書になっていくような気がします。

前回の話の中で「らしさ」が出ましたけれどもあれから考えてみたところ、「らしさ」は議論してもあまり意味がないと思います。大体「つもり」でいるからです。皆さん、報告書を読んだつもり、出したつもり、板橋区らしいつもりで終わってしまうのです。だからやはり本当に議論しなければならないのは、板橋区の魅力って何だろう、その時私たちは板橋区の魅力を考えているのか、自問しているのか、魅力という力を我々は持っているのだろうかということを振り返るような報告書にできればと思いました。以上です。

会 長：ありがとうございました。

委 員：意見してよいですか。

会 長：はい、どうぞ。

委 員：板橋区は文化芸術の振興にとっても力を入れています。板橋区の文化の代表的なものとして、具体的には伝統ある田遊びなどがそれにあたると思います。今回の報告書については、板橋区はこれまでも文化行政に力を入れていたのだということに記載する必要があります。

これまでの検討会で私が驚いたことは、板橋区が行っている文化芸術の事業が、区民にあまり知られていないということです。情報の伝達方法を今あるものと違う形で行っていけるとよいと考えます。今一番大事なことは、報告書と同時に普段の動向をどうやって展開していくかです。それが板橋区の一番大事なことだと思います。以上です。

会 長：ありがとうございました。最近スマホ時代であらゆる情報がインターネットを通して配信されています。区の情報や区の中の地域活動の情報など配信されています。必要な情報をいつでも探せるのが今の時代ですから、そこに情報を発信する力を行政が下敷きを持つのか、あるいは、それぞれの団体が主体として情報発信していくのかを考える必要があります。仮にそれぞれの団体が主体となる場合であっても行政が支援することは必要だと思います。いずれにしても、そこはコミュニケーションという言葉があります。ここでは単に言葉が通じ合うコミュニケーションではなく、情報発信し、受信し、あるいは情報を交流させるという意味でのコミュニケーションが意味を持つようにご理解ください。報告書の中に盛り込めないことが多々ありますが、それはそういう趣旨がここに書いてあることを記憶にとどめて、今後活かしていけるかどうかということです。

一通りご意見を賜ったところですが、最後に、何か意見ございますか。

各委員：ないです。

会 長：本日まとめるにあたって色々なご意見をいただきましたことについては、事務局と協議しまして、今後報告書を一部変更したり、差し替えしたり、あるいは表現を変えたりするなど若干させていただきます。その点は会長にご一任いただいて、区長に答申をしたいと思います。皆様にはご了承いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

少し早めではございますけれどもこれをもって検討会は終わりとなります。事務局から今後についてお願いします。

事務局：ありがとうございます。それでは今後の予定について簡単にご説明させていただきます。先ほどの報告書のまとめについて、岡田会長と事務局でまとめる方向でご一任いただきましたので、本日いただきました様々なご意見を踏まえて、区が報告書をまとめていきたいと考えています。特にご意見をいただいた昨今の社会状況を踏まえた、コロナへの対応の部分やその対応を盛り込んだ形で調整を進めていきます。報告書がまとまりましたら、一旦各委員の皆さまにご報告させていただきます。その後、岡田会長から坂本区長に報告書をご提出いただくという流れとなります。よろしくお願いいたします。今

	<p>後の予定につきましては以上となります。</p> <p>会 長：ありがとうございました。それではこれもちまして、検討会を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。</p>
所管課	区民文化部文化・国際交流課 文化・国際交流係 （電話 3579—2018）